

(前頁から続く)の時に両親をなくし孤児になった。今ではこの孤児院で129人の孤児たちを養育されている。政府の支援を受けると規制が強くて自由に活動ができないので、援助は受けていない。世界のキリスト教団体の支援も届いていないといわれた。昼、食事中的子どもたちを参観した。

院長が言われた戦争中、この建物の隣に日本軍本部があり、米中軍の攻撃で撤退に際し、機密書類や武器もろとも建物を爆破した跡もそのままだ。私たちは訪問した施設で実情を見聞し、それぞれの施設に僅かですが寄付金と衣料品や文具を寄贈した。これらが少しでも役立てばと思う。



カウエチャン盲学校へ英語点字本贈呈

おわりに

国際部会で私たちの研修旅行の計画を申し上げたところ、会合参加者にカンパを募って頂きました。こころ温まる思いがしました。カンパは、ティンミャンマー日本語専門学校の教材用マイク購入の一部として使用しました。そして今回研修旅行の報告文の寄稿の機会を与えて頂きましたことに重ねて御礼を申し上げます。

研修旅行とはいえ観光も含まれています。ヤンゴンでは金色に輝くシュエダゴンパゴダ、バガンでは大小2千基を超す仏塔、イラワジ河クルーズでの夕日の眺め、風光明媚なインレー湖観光、3年前から公開されたカック遺跡など心に残る旅行でした。

交流では梅農林での農民との共同作業や梅林で農民手作りの食事会をできたことや、日本語を学ぶ学生達との食事会、ショッピング、日本人墓地参拝など心に残る交流でした。

これからもボランティアと観光を含めた研修旅行を続けていけたらと思っています。(2006年3月18日)

文化部会

有馬よい湯こガイド

国5 - 文 中川正俊

神戸の奥座敷、有馬温泉を訪れる観光客の案内をはじめて約7年になります。シルバーカレッジ在学中、歴史探訪クラブの有志が中心になって、有馬観光ガイドボランティアグループを結成、現在会員は28名を数えています。

2月、8月のオフシーズンを除いて土、日、祝日に会員2名が交代でガイドをしています。ことに3月末から4月にかけてのシーズンには、1日の案内件数は300人から350人にもなります。

有馬温泉は江戸時代の頃から桜の名所として知られています。有馬川沿いのソメイヨシノは古木で見応えがあります。善福寺の樹齢270年の糸桜(しだれ桜)は市民の木に指定され多くの観光客が訪れます。また鼓が滝公園の有明桜は有馬六景の一つとして有名です。

この他にも秋の瑞宝寺公園の紅葉も綺麗だし、大茶会にも大勢訪れます。湯元坂には今でも江戸時代の名残

をとどめた旅館、町並み又史跡、神社、仏閣等歴史のある町です。

泉源めぐり、人形筆、有馬籠等のおみやげ、玩具博物館、切手博物館、太閤の湯殿間を訪れながら散策するのも楽しいものです。

季節を問わず退屈しない癒される温泉街有馬に是非一度、ゆっくりと訪れてみては如何でしょうか、われわれ有馬観光ガイドグループがもてなしの心でご案内いたします。



有馬温泉のガイドする会員たち(左)

イベントカレンダー

(有馬温泉道しるべより)

- ★1月2日 入初式
- ★4月上旬 さくら祭り
- ★6月下旬 沙羅の花と一弦琴の鑑賞会
- ★7月上旬 有馬七夕ひょうたん祭り
- ★8月上/下旬 有馬涼風川座敷
- ★8月上旬 ありまの夏祭り
- ★11月上旬 有馬大茶会

グループ紹介④ 神戸ホタルの会

この会は生環9期生のグループ学習で実施した「しあわせの村にホタルを飛ばそう」を卒業後も引き続き生涯学習のテーマとして、昨年度から発足したグループです。現在会員数は12名ですが、どなたでも入会して頂けるよう門戸を開いています。

入会金と会費は特に決めていませんが、手持ちの資金が無くなってきた時に随時徴収しています。ちなみに昨年発足時に各人から3,500円を集めて活動資金に当てています。

活動内容は、しあわせの村の日本庭園にホタルを飛ばせるために、園内の水路にホタルの幼虫が成育するようにエサのカワニナを放流して観察を続け



したホタル
日本庭園で羽化

ながらホタルに関するイベントを見つけては適宜参加しています。

月に一度全員が集まって情報交換していますが、各自が常に自主観察やお互い情報収集に努めています。

近在の小中学校とも交流を計り、子供達のホタル学習支援も行なっています。日本庭園でのホタル飛翔実績は、2004年36匹、2005年12匹とまだまだ少ないですが、これを100匹~1000匹と増やして神戸の newName 所になればと願っています。詳しくはHP (<http://www.geocities.jp/souryupj/hotaru/>) ご覧下さい。